

◆経済倶楽部講演会第4457回（5月26日）

植田新総裁率いる日銀の課題と 政策正常化の行方

東短リサーチ社長
加藤 出

- * 不自然な状態が続く日本の低金利
- * 超円安の背景と実態について
- * まだ続く世界的なインフレ状況
- * FRBの金融政策の現状と行方
- * 財政赤字と低成長が共存する日本
- * 植田新総裁の政策スタンスを考える
- * YCCに対するFRBの評価
- * 金融政策の正常化をどう進めるか
- * “ロープレーション”への回帰はあるか
- * 経済成長における教育・再教育の重要性



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、久しぶりになりましたが、東短リサーチの加藤さんにおいでいただきました。

日銀の総裁が替わりまして政策変更があるのではないかとという期待もありましたが、残念ながら何も変わっていないようでございます。そういうことで、金融市場、株、さまざまなマーケットのお話を今日はじっくりお聞きしたいと思います。

それではよろしくお願いいたします。（拍手）

不自然な状態が続く日本の低金利

加藤 ありがとうございます。東短リサーチの加藤です。本日はどうぞよろしくお願いたします。

今御紹介いただきましたように、植田新総裁になって、もうちょっと違う味を出してくるのではないかと期待していたのですが、これまでのところは随分慎重にやっています。これは、「何だ、黒田さんと変わらないじゃないか」みたいな失望感も金融市場には今、大分現れてきています。アメリカ経済のいろいろな不確実性もありますので、しばらく慎重にいく雰囲気なのか、という感じですが、それも含め、日本経済の課題を整理していきたいと思えます。

最初に世界における日本経済の状況をざっと見てみたいと思います。5年ごとの累積の経済成長率を、先進国（人口100万人以上）の32カ国と比較してみましよう。アベノミクス、日銀異次元緩和が開始される前年である2012